

製品名: RASSF1 (19I9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16920**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IF-P
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100,IF-P 1:50-1:100
分子量	39kDa

抗原情報

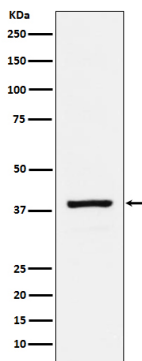
遺伝子名	RASSF1
別名	NORE2A;
遺伝子 ID	11186.0
SwissProt ID	Q9NS23
免疫原	ヒト RASSF1 の合成ペプチド

背景

潜在的な腫瘍抑制因子。デスレセプター依存性アポトーシスに必要。Fas 誘導性アポトーシス中に STK3/MST2 および STK4/MST1 の脱リン酸化を防ぐことで、それらの活性化を媒介する。MOAP1 と結合すると、TNF および TNFSF10 刺激に応答して BAX の構造変化とミトコンドリア膜への移行を促進する。潜在的な腫瘍抑制因子。デスレセプター依存性アポトーシスに必要。Fas 誘導性アポトーシス中に STK3/MST2 および STK4/MST1 の脱リン酸化を防ぐことで、それらの活性化を媒介する。MOAP1 と結合すると、TNF および TNFSF10 刺激に応答して BAX の構造変化とミトコンドリア膜への移行を促進する。アイソフォーム A は、後期促進複合体 APC の活性化因子である CDC20 と相互作用し、APC 活性と有糸分裂進行を阻害する。サイクリン D1 タンパク質の蓄積を制御することで、G1/S 期移行レベルで細胞周期の進行を負に制御し、増殖を阻害します。アイソフォーム C はこれらの役割を果たさないことが示されており、このアイソフォームの機能は特定されていません。アイソフォーム A は、MDM2、DAXX、および USP7 間の相互作用を阻害し、DNA 損傷に対する細胞周期チェックポイント制御において MDM2 の自己ユビキチン化を促進することで、TP53 の効率的な活性化に寄与します。

研究分野

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の RASSF1 発現のウェスタンブロット分析。